ホオズキの軟腐病・斑点細菌病

京築普及指導センター

○病徴





○病原菌はともに土壌伝染性の細菌病
高温多湿での発生が多い

○植物体での侵入経路は主として傷口が多く、その他自然開口部（気孔）

○取られてきた主な防除対策
①地下茎の消毒
②定植後の薬剤散布

○発生が増加する原因はたくさんあります。
①近年の気温上昇・・・・・・・発生しやすい気象条件
②機械による汚染土壌の持込・・機械に付着した汚染土壌で作付け地を耕起等
③排水不良・・・・・・・・・・不適地栽培（土壌の過湿は発病好条件）
④地下茎消毒の不徹底・不備・・実施していない、浸漬時間の長短
⑤支柱の消毒の未実施・・・・・細菌病の伝染経路に多いのに軽視されがち。
⑥定植後の薬剤散布の不徹底・・定期散布できていない、十分かかっていない
⑦土壌水分管理の不徹底・・・・極端な乾湿差による根痛み、潅水のタイミング不備
⑧下葉かぎの不徹底(通風不足)・・時期が遅い、実施直後の降雨等タイミングが悪い
⑨脇芽つみの不徹底（傷口拡大）・・脇芽つみが遅く、茎・芽の傷が大きい、実施直後の降雨等タイミングがわるい。
⑩作業者の手や手袋、長靴で伝染・・見落とされやすいが、非常に多いケース。発病株を除去した手や手袋で株に接触。通路に株を放置。長靴の土による伝染等。